



高 松 市 美 術 館 ボランティア通信 2015年4月1日 発 行

しびの一と

誌上ギャラリートーク

高松市美術館は2016年春リニューアルオープンにむけて改装工事中!

2015年1月から、高松市美術館では長期間休館して、施設の改修工事をしています。1988年、瀬戸大橋開通の年に高松市美術館が市街中心地にオープンしてからおよそ27年が経ちました。石と金属とガラスで構成された、重厚感のある建物の外観やエントランスホールなどは、とくに古びたようには見えませんが、ここ最近の展示室の壁、じゅうたん、ソファなどはかなり使い古された感がありましたし、お客様からは見えないエリアですが、空調や機械関係はかなり経年劣化が進んでいました。展示室の全面的な更新、楽しみながらアートに触れる「こどもアートスペース(仮称)」や明るく開放的なカフェの設置、などなど、さまざまな「リニューアル」が実施されます。リニューアルオープンは第3回瀬戸内国際芸術祭が始まる2016年3月の予定。新しく生まれかわる高松市美術館にぜひご期待ください!



中2階 こどもアートスペース(仮称)の内装イメージ

草間彌生《無題 (金色の椅子のオブジェ)》1966年

できやよい《カッペリ》2003年 ©Yayoi DEKI cortesy of YAMAMOTO GENDAI

4つの「おでかけ」コレクション展を開催!

改修工事期間中の5~8月、高松市内の2つの文化施設におでかけして、4つのコレクション展を開催します。

「版画」「トリック」「反復」「身体」「いきもの」など多彩な切り口で当館コレクションの魅力をお楽しみいただきます。学芸員やボランティア civi によるギャラリートークや、出品作家によるワークショップなどの関連イベントもお楽しみに!

- ・5月20日(水)~5月31日(日)「戦後日本の版画」(香川県文化会館)
- ・6月6日(土)~7月12日(日)「ひとのかたち-ゼロ年代以降の現代アートを中心に」 (高松市歴史資料館)
- 7月 18日(土) ~ 8月9日(日)「とびだせ!いきものずかん-讃岐漆芸と現代アート」 (高松市歴史資料館)
- ・8月2日(日)~8月16日(日)「トリックと反復」(香川県文化会館)

*それぞれ、会期中毎日曜・祝日10:30から展示室でボランティアciviによるギャラリートークを実施。 *6月13日(土)13:30~16:30、高松市歴史資料館で「できやよいワークショップ・うちわに絵を描こう!」を開催。

11/14, 21, 28

生涯学習カレッジ「アートで心も体もリフレッシュ!」

(講師:高松市美術館・牧野裕二/高松市生涯学習センター)

アシスタント

出前講座の一つ「カードゲーム」のアシスタントとして参加しました。市美術館の所蔵作品も含む美術作品の絵ハガキを使ったゲームで、2枚のカードの共通点を見つけ出し、それを言葉で説明するゲームです。共通点を必死で探すことで、作品の細部を観察する習慣が養われます。この日は6人くらいずつ3つのグループに分かれてゲームを開始しました。最初の持ち札は5枚で、共通点を見出し発表、それがグループの中で認められると手持ちのカードが減るわけですが、順調に減っていく人、一向に減らない人とさまざまです。なかには絵ハガキの作品そのものに関心を示す方もいて「キリストなのですよ」とか、「『ハムレット』のオフィーリアですよ」と説明するのは嬉しい番外編でした。参加者が比較的高齢の方達だったせいか、発見する共通点は森羅万象に及び、また「この絵



のお城は昔旅行で行ったわ」と思い 出話も飛び出し和気あいあいの雰 囲気でゲームは繰り広げられたの でした。参加者と一緒に画面の隅々 まで目を凝らす体験はとても新鮮 で、発見の多いアシスタント体験で した。

12/6 消しゴムハンコ研修(講師: 高松市美術館・今井真衣子)

アシスタント



消しゴムハンコ作家というもう一つの顔をもつ高松市美術館職員の今井真衣子さんを講師に迎え、とても楽しく消しゴムハンコを作りました。私を含め、ほとんどのメンバーがドキドキの初体験!でした。ま

ず、彫りたいイラストを5cm×5cmサイズの正方形の紙に描いて消しゴムに写します。「リラックスして楽しみながら彫るといい」と言う今井さんのアドバイスのもと三角刀や丸刀を使って、思い思いに彫りました。正直言うと、私は最初緊張して曲線が上手く彫れず自分の不器用さに自己嫌悪。なんとか仕上がった私の作品を見て「とても可愛く仕上がりましたね。」と今井さんが声をかけてくれて、子どものように嬉しくなりました。こうして講師の今井さんの鮮やかな進行手腕のもと、私達は無事に作品を完成することができました。「押した瞬間が気持ちいい」と今井さんは言われましたが、彫りあがったハンコに色とりどりのスタンプを付けて色

画用紙に押した時のワクワク感は本当に最高でした。 最後は参加者全員で「寄せ押し」を行ない、作品集が完成。にわか作家の気分が味わえて大満足の研修でした。



[佐々木真理子]













Activities

2014年10月~2015年3月 civiの主な活動

10/1 しびのーと29号発行

10/18 子どものアトリエ (講師:美術家・西山美なコ氏)

アシスタント



西山美なコさんは、ピンクを基調とした「かわいい」作品で知られています。美術館の展示室の壁の前に置かれた、装飾的な曲線を型取った真っ白い作品からは、不思議な淡いピンクの光が発せられています。今回のワークショップでは、そのロマ

ンティックな作品のナゾが解き明かされました。用意されたのは、白い画用紙二枚、絵の具、ハサミ、カッター。まず、一枚目の紙に、好きな色を何色でも自由に隙間なく塗ります。意外にも、ハッキリとした強い色です。それを乾かした後、色面を内側にして山折りにし、好きな形に切り抜きます。それを、もう一枚の画用紙の上に置いてみると、塗った絵の具の色が、白い面に淡く反射するのです。サイケな色面とは裏腹の、ロマンティックな作品の完成です。西山美なコさんのトークでは、「ピンク」という言葉のもつ相反するイメージについてのお話もあり、辛口な一面も垣間見ることが出来ました。ワークショップが終わる頃には、女子中学生ほか参加者の興味は、自由な切り絵遊びへと移り変わり、作業台はいつものように、ハートやリボンやウサギのモチーフに占領されていきました。

[坂口弘子]

12/21 子どものアトリエ「毛糸でクリスマス★アート!」

(講師:美術家・あきやましんご氏)

アシスタント

講師のあきやましんごさんが事前に描いてきたクリスマス調の 絵を壁にスライド投影させ、15 cm~30 cmに切った色とりどりの毛 糸を上からなぞるように貼り付けていくコラージュ作品をみんなで制作しました。

時間の経過とともに、平面だった作品は、しだいに厚みを増し、ひとつひとつの線は、画面から飛びだしそうなくらい勢いを増していきました。思いがけない様な色と形で画面はうめつくされ、クリスマスらしい華やかな大作に仕上がりました。

ワークショップの後、クリスマスの雰囲気を楽しんでもらおうと、美術館職員とボランティア civi(劇団四美?と某氏より命名いただき、感激!)による影絵劇を上演。風邪を引いたサンタさんに代わり、出来の悪い3番弟子のサムタ君が初めてクリスマスプレゼント配りに奮闘するというお話です。私はナレーションを担当し

たのですが、手作り感いっぱいの影絵劇にちょっぴり声優にでもなったような気持ちになりました

また、素敵な影絵劇の背景を 高松在住の美術家・高松明日香 さんが作ってくださいました。





2/20 第5回香川県児童館職員研修会

(講師:高松市美術館・牧野裕二/高松市生涯学習センター)

アシスタント

「さぬきこどもの国」で、0~18歳未満の子どもたちが集う児童館、放課後児童クラブの指導員の方への研修会で行われた出前講座「レッツ!あそびじゅつ」のスタッフとして参加しました。かんたん抽象絵画、デカルコマニー、フロッタージュの技法体験や、絵画のポストカードを使ったマッチングゲーム(カード同士の共通点を見つける)、キーワードゲーム(お題のことばとカードを結びつける)を行いました。技法体験では、制作過程を写真に収める方、教材について質問される方など、熱心に取り組んでいただきました。アートゲームでは、「こんなに絵画を丁寧に見たことないヮ」と、言



われながら熱く燃え、珍回答も有り、笑いに包まれながらのゲームでした。各々の児童館や児童クラブに持ち帰り、子どもたちにも楽しみながら、アートを身近に感じてもらえたらと思った一日でした。

[山上紹代]

3/9 高松市塩江美術館特別展「図と地の温度」鑑賞及び 千葉尚実・HANNA氏ギャラリートーク参加



小雨降る3月最初の日曜日、塩江美術館「図と地の温度」展のアーティストで本人によるギャラリートークに参加しました。展示室への扉をあけ、まずHANNAさんの映像作品によるインスタレーションを体感。大きく映し出された霧で霞んだ静かな森。よく見ると動きがあり、時が流れている事

がわかります。テーマは「時間が人間や事物に与える両義的な作用」。HANNAさんの「時間があるから希望がある」という言葉は「時間が解決してくれる事」の存在を改めて考えるものとなりました。次に千葉尚実さんの作品ではモノクロの人物画が並びます。丸亀

市本島で体験した死者を弔う独特な風習を受けて、亡きご家族を描いた遺影。死を身近に感じ、故人を想う事が一番の供養である事、遺影を通して想いは強く具体的になるという事に気がつきました。そして展示室奥には「ジンジャ」という名の作品(おみくじがひけます)。シヴィの今後を…と



代表がひきあてたのは「大吉・愛はとこしえ」! 気を良くした私たちは次々にひいていきますが「凶・むっつりスケベー」「末吉・ぬらぬらする」など、千葉さんによるスパイスの効いた結果に大笑いしたのでした。 [十河裕実]

みなさま、どこかでお会いした事があるかも知れませんが、私はこの 絵の中に描かれているペットの犬(ヨークシャテリア?)です。これから

お昼寝の時間となります。私の隣でふかふかの椅子に座っているのが、 この作品の主役であるお嬢様。お年の頃は小学生くらいでしょうか。先

程まで私とお庭を走り回って遊んでいたので、とてもお疲れのようで

す。半分閉じそうな目、ちょっとお下品ですが脚をぶらぶらさせ髪も乱れ放題。うとうと居眠りしそうになっています。 私たちを描いた画家メアリー・カサットは印象派を代表するアメリ

私たちを描いた画家メアリー・カザットは印象派を代表するアメリカ出身の女流画家であり、私を可愛がってくれるご主人。彼女は父親の猛反対を押し切ってプロの画家を目指します。29歳の時パリに移り住み、印象派の巨匠エドガー・ドガと知り合い、多大な影響を受け印象派

2015年 1/17

高松市塩江美術館 特別展「現代子 大木裕之展」 鑑賞及び大木裕之氏ギャラリートーク参加

期待を持って臨んだ大木裕之展のクロージングイベント。展示 室の扉の向こうにあったのは床に散らばる「ゴミ!!鑑賞者は戸惑 い顔で「ゴミ」を踏まぬよう、おそるおそる移動。気を落ち着けて観 察すると、香川のお菓子の箱、パン屋の袋、コンビニのレシート、 と、雑多でありながらも、すべて作家の手を経たものが散りばめて あることがわかります。ほどなく始まったパフォーマンスは、もの が壁に投げつけられたり、観客が巻き込まれたりと、ずいぶん過激 な内容。工藤冬里氏のピアノによるジャズライブも、私にとっては さらに混乱を招くもので、消化不良のまま塩江をあとにしたので した…。そして、本当の意味の面白さはこの後のcivi仲間のイベン ト参加感想会にありました。どの人も必死になって嫌悪感の奥に 「美」を探り、格闘しているのです。私自身、「嫌いだ」と言い放つの はたやすくとも「美術館ボランティア」としてのプライドがその宣 言を阻みます。おそらく大木氏は私たちの中の「美」を壊し、揺さぶ りをかけるのが狙いだったのでしょう。まんまと乗せられて、いま だに揺れている自分が歯がゆいのです! [高木由貴子]



いまにも雪が降りそうな寒い1月の午後、大木裕之(1964年生)のパフォーマンスがあるという。「現代子」(げんだいし)という展覧会のタイトルにもなっている大木の造語が気にかかる。

いよいよ大木のパフォーマンスが始まる。大木はボディフットのまるでアスリートの様ないでたちで登場し、ジャズピアニストの工藤冬里と交互に展覧会場外に置かれたピアノを演奏する。食パンの塊を齧りながらである。

その後、足の踏み場もないくらい物が、もしかしたらゴミ?が広げられ、展覧会場に入るやいなや、(スプレー絵の具を美術館の壁に向かって吹き付ける、押しピンをばらまく、知人の男性の髪を切り始める。)観客は驚き、不安、あるいは怒りという感情が会場を支配していく。そこで、改めて、そこに置かれている物(ゴミ)に興味がわいてくる。今を生きる私達現代人は、生まれてから死ぬまでどれだけ多くの物を手にするだろう。しかも、その物たちは、ゴミとなっていく。そのゴミはとてもよく似てはいるが、一人一人違っていて、ある意味個性的でもある。その人生の生き方や好み、価値観までもがはっきりわかるものでもある。最期の時を迎えるまで私達はゴミを出し続けるのであろう。もしかしたら葬儀の祭壇や献花もゴミとなってしまうのだろうか。家路に着いてもひっかかりの多い展覧会となった。

復活!わき役のひとりごと。

第4回

に加わります。ちなみにお嬢様はドガの友人のお子様です。私のご主人力サットが印象派を離れた後も二人の親交は未永く続いていきます。人との出会いにも一生に一度しかない運命の出会いがあるも

の。ドガとの出会いがなければ彼女の印象派と しての芸術は誕生しなかったでしょう。

この絵の魅力はなんといってもお嬢様の強烈な存在感でしょう。それは画家のたぐい稀なる観察眼のなせる技。あなたもお嬢様の自然体の姿に心惹きつけられることでしょう。



メアリー・カサット 《青い肘掛け椅子の少女》 1878年 油彩・カンヴァス ワシントン・ナショナルギャラリー蔵

[佐々木真理子]

旅の便り ―イースター島を訪れて ―――――――――――――――――――――――

2015年になって早々、旅に出ました。日本から飛行機でブラジルへ行き、リオデジャネイロから船に 乗って南米大陸と南太平洋を巡る、約2ヶ月の旅です。10ヶ所の寄港地、7カ国を訪れました。先日、タ ヒチを離れ、今は最後の寄港地ソロモン諸島へ向う海の上です。なぜ旅に出たのか?私は、初めて訪れる 南米の風景や文化に興味がありましたが、おそらく何よりも、自分の内面に起こるであろう変化に興味 があったのだと思います。2ヶ月日本を離れることは、私にとって生まれて初めての経験でした。

最も興味深かった寄港地はチリの「イースター島」です。モアイ像が立ち並ぶ神秘的な島。本当の名前 を「ラパ・ヌイ」といいます。イースター島という名前は、1722年のイースター(復活祭の日)にこの島 へ辿り着いたオランダ人が付けたそうです。日本では一般的なこの呼び名が、チリではほとんど使われ ていなくて、私はとても驚きました。

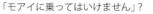
今まで写真でしか見た事のなかったモアイ像を目の前にして「本当にあったんだ!」と感動したのは もちろんですが、私はこの島の静けさに憧れを抱きました。私が訪れたのは昼間のたった8時間ですが、なぜか不思議な幸福感に包 まれました。イースター島の周りは、見渡す限り、今まで見たことのないほど鮮やかなコバルトブルーの海!そして、南の国ならでは の眩しい太陽、開放的な民族衣装。笑顔で迎えてくれる島の人々。昼間の魅力に加え、夜になればどれほど静かで、どれほど星が美しい でしょうか!私は、島の片隅にテントを張り、夜空を眺めながら眠る自分の姿をうっとりと想像しました。

また、旅全体を通して驚かされたのは、南米における日本サブカルチャーの評価の高さです。ヨーロッパで日本のマンガがウケてい ると聞いていましたが、南米も然り!アルゼンチンやウルグアイで、日本語を勉強中の若者と交流する機会がありましたが、日本に興 味を持ったキッカケを聞くと必ず「マンガ」。そして、道端にある小さな雑貨店にさえ「ダンガンロンパ」(←知ってる?)のカンバッヂ が売られている!任天堂のゲーム攻略本が売られている!日本発のキャラクターグッズは、どこの街に行ってもありました。

旅はもうすぐ終わります。さて、私はこの旅で変化を起こすことができたのでしょうか?人相が変わるほど日焼けしただけで終 わっていなければいいのですが…。(2015.2 太平洋上にて) [元高松市美術館職員 福田千恵]









モアイは何体あるでしょう?

編集後記

◎2013年、森美術館で開催された「LOVE展」で、西山美なコさんの「ザ・ピん ともに、絵が醸し出すリズムに魅了され、身動き出来ない自分がいました。お くはうす」という、ピンク色のドールハウスを人間サイズに拡大した作品を 観ました。(母親の思惑であろう)全身ピンクの少女は愛らしいけれど、全身 ピンクの大人の女はいかがわしい…ってことなんでしょうか…?

◎寒さが和らぎ春の訪れを感じると心が華やぎます。春を匂わせる色として 大活躍のパステルカラーは心身をリラックスさせる癒しのパワーがあるそ う。休日には大好きなパステルカラーでお洒落してプチ旅行をしたい今日こ の頃です。 [佐々木真理子]

◎神戸・竹中大工道具館で、数奇屋建築についての講演会を聞いてきました。 木材を自然の形のままに使って作る茶室。必要なのは現代の構造計算ではな く、細やかに且つ、永く受け継がれる「伝統の知恵と技」である事に感動しま [十河裕実]

◎早春の候、神戸の海沿いの美術館にホドラーを訪ねました。独特の色彩と

土産はホドラーの絵の缶入りチョコレート。眼と舌で愛でつつリズムの余韻 を味わっています。 [高木由貴子]

◎内館牧子さんによると、若者の間では、美味しいものを食した時に「ヤバ [坂口弘子] イ!!」と言うそうですが、御存じでしたか。知らなかった私は「ヤ・バ・イ」・・・。

> ◎12月から4月にかけて何人かの人が美術館を去り、また美術館にやってき ました。学芸員として長年にわたり展覧会や作品収集に尽力してこられた住 谷晃一郎さんと毛利義嗣さん(毛利さんは4月より京都造形芸術大学へ)、そ して、この「しびの一と」をはじめ館のデザインを手広く手掛けてくれた福田 千恵さんがご退職。皆様に深謝。そして、学芸員として石田智子さんが新しく 仲間入り。新しい学芸員採用はなんと20年ぶり!また、市役所勤務だった毛 利直子さんが戻ってきます。新体制でリニューアルにむけて頑張ります!

[高松市美術館学芸員 牧野裕二]